

中国の朝鮮族中学校カリキュラムにおける 「朝鮮語文」の位相の変化

蔡光華

東京学芸大学 連合学校教育学研究科 (博士課程)

概要: 中華人民共和国は漢民族と 55 の少数民族で構成された多民族国家である。各少数民族自治地方には教育自治権が与えられ、民族学校の設立権、民族語の教育権が保障されてきた。特に、少数民族の言語文字に関して、「中華人民共和国憲法」(1954) 第 3 条には、「各民族は、自己の民族の言語文字の使用とそれを発展させる自由がある」と明示している。その憲法の下で、中国の少数民族学校では「二言語教育(双語教育)」、つまりバイリンガル教育を行ってきた。朝鮮族学校も例外なく、「朝鮮語文」と「普通話(標準中国語)」の「二言語教育」を行ってきた。近年、中国政府は国家公用言語文字である普通話の普及を積極的に推進しており、その結果、朝鮮族中学校における言語教育に影響が及び、カリキュラム上の朝鮮語文の位相も変わっている。本研究は、こうした言語政策変化の中、朝鮮族中学校のカリキュラムにおける「朝鮮語文」の位相がどのように変わっているのかを確認することを目的とする。

キーワード: 少数民族教育、朝鮮族、朝鮮族学校、朝鮮語文

The changing status of the Korean Language in the curriculum of Korean-Chinese middle school

Cai guanghua

Tokyo Gakugei University United Graduate School of Education

Abstract: *As is well known, the People's Republic of China is a multi-ethnic country consisting of the Han Chinese and 55 ethnic minorities. Ethnic minority schools in China implementing bilingual education. Korean-Chinese schools also have been providing bilingual education in Korean Language and Mandarin. In recent years, the Chinese government is actively promoting Mandarin. Against this background, the language education in Korean-Chinese junior high schools is undergoing changes, and the status of Korean Language is also changing. The purpose of this research is to confirm how the status of "Korean Language" in the curriculum of Korean-Chinese junior high schools is changing.*

Keywords: *Minority education, Korean-chines, Korean-Chinese ethnic schools, Korean Language education*

はじめに

中華人民共和国は漢民族と 55 の少数民族で構成された多民族国家である。各少数民族自治地方には教育自治権が与えられ、民族学校の設立権、民族語の教育権が保障されてきた。特に、少数民族の言語文字に関しては、「中華人民共和国憲法」(1954) 第 3 条 に、「各民族は、自己の民族の言語文字の使用とそれを発展させる自由がある」と明示している。その憲法の下で、中国の少数民族学校では「双語教育（二言語教育）」、つまりバイリンガル教育を行ってきた。朝鮮族学校も例外なく、「朝鮮語文」と「普通話（標準中国語）」の「二言語教育」を行ってきた。

しかし、近年、国家公用言語文字である‘普通語’の普及が低く、少数民族の統合と労働生産性の高揚に支障が生じることを懸念した中国政府は、普通話の普及を積極的に推進している傾向である。その結果、朝鮮族中学校における言語教育にも影響が及び、カリキュラム上の朝鮮語文の位相も変わりつつある。

本研究は、こうした言語政策が変化する中、朝鮮族中学校のカリキュラムにおける「朝鮮語文」の位相がどのように変わっているのかを明らかにすることを目的とする。なお、中国政府の普通語普及政策に関する内容は、中国政府が公開している中国語の原文を筆者が翻訳、整理していることを断わっておく。また、朝鮮族中学校における「朝鮮語文」教育の変化に関する資料は、主に、筆者が現地に赴いて収集したものである。

1. 中国における少数民族の言語教育政策

中国政府が今日まで公式に認めた 55 の少数民族の中、漢語のみを使用している回族と満族を除いて、53 の少数民族は自民族の言語を持っている。ただ、中には文字を持っていない民族もあり、文字を持っている少数民族は 22 の民族だけである。22 の少数民族の中には複数の文字を持っている場合もあって、少数民族が使用している文字は 28 種である。その中には、中央政府が創作あるいは改良に関わったものもある（中国国務院，2009）。

多様な民族言語に加え、広大な国土を有する中国には、さまざまな方言も存在する。中国政府は少数民族言語を保護すると同時に、国家公用語の普及政策も行なってきた。その際、少数民族の言語を粗末にする印象を避けるために、国家公用語の名称にまで配慮がなされていた。その事情について、楊（2022）は、「1955 年、中国教育部と中国文字改革委員会で開催された現代漢語規範に関する会議で、漢語のみを重視し、各少数民族言語を差別する誤解を避けるため、あえて「国語」の名称を使わず、全国で通用する現代漢語を‘普通話’と命名した」と述べている。会議後、1950 年代から、中国国内では国家公用語を‘普通話’と称するようになったのである。

その後も少数民族の教育、特に言語教育を重視する政策は変わらなかった。中国国家民族事務委員会が 1980 年に発表した「教育部、民族教育工作強化に関する意見」でも、「民族小中学教育発展において、教育制度、教学内容と方法等の方面で、少数民族の特性に適応させなければならない。もっとも重要なことは、自民族の言語文字を有する民族は、自民族の言語文字を使用して授業を行い、自民族の言語文字を習得し、同時に漢語漢文も学ばなければならない」と明示し、少数民族の自民族言語学習と漢語の並行学習の「義務」を明記している。

このような政策に従い、中国の少数民族学校は「二言語教育（双語教育）」、つまりバ

イリソル教育を行ってきた。少数民族地域の民族学校では、少数民族学生に対し、自民族の言語教育と国家公用語である「普通話（標準中国語）」の教育とを同時に行ってきたのである。

朝鮮族、モンゴル族、ウイグル族、カザフ族、チベット族などは民族内で普及した固有の文字があり、人口も多く、幼稚園から大学に至るまで、民族語・民族文字による教育体系が確立している。大部分の学校では民族言語を授業言語として使っている。これらの各少数民族学校は長い間二言語教育（長期型の二言語教育）を行なってきた（岡本，2008）。中国少数民族の二言語教育には、移行型、或いは短期型もある。つまり、小学校低学年時は民族語のみで言語、算数などを教えるが、途中から漢語を教え始め、漢語との併用を経て、最終的には漢語のみで教育を行う体制にシフトするシステムである。岡本雅享の2008年の調査によればとクルグズ族、シボ族、ロシア族などの民族学校では短期型の二言語教育を行っている（蔡他，2023）。

2. 朝鮮族中学校における「双語教育（二言語教育）」

朝鮮族学校は、主に長期型の「二言語教育」を行ってきた。従って、朝鮮族中学校のカリキュラムの中には、「朝鮮語文」と「漢語」の二つの科目が両立していた。「漢語」は、全日制民族小中学校で開設する科目で、漢語を母語ではなく第二言語とする少数民族を対象とする科目である。全日制民族小中学校では、主に民族言語で授業を行い、「漢語」と言う科目を増設し、国家公用語を学習するのが目的である。「漢語」科目は民族地域の少数民族学生にとっては「外国語」のような存在で、比較的簡単な内容で構成されている。

延辺朝鮮族自治州においては、公用語は漢語と朝鮮語の二言語であり、自治州内の各朝鮮族学校では、授業言語から日常会話まで朝鮮語が中心となっている。漢語は一つの外国語のような科目として学習することになる。

ハルビン、長春、瀋陽などの中国東北部の地域にも朝鮮族と朝鮮族学校がある。延辺朝鮮族自治州以外のこれらの地域の公用語は漢語のみで、その地域の朝鮮族学校内の学生は日常会話において漢語が第一言語である者が多い。従って、上記地域の一部朝鮮族学校では徐々に漢語が授業言語になっていた。

2003年の「延辺朝鮮族自治州自治条例」の第55条は、「自治州内の朝鮮族小中学校は朝鮮語と漢語および外国語教育を強化させ、多言語を学習するための土台を作る」と改正された。この条例は、朝鮮族学校では教授言語が朝鮮語であることが原則であるが、漢語で授業を行うことに関しても認めるという内容が提示されたのである。延辺朝鮮族自治州の朝鮮族学校の授業言語も朝鮮語から漢語で変わりつつある。

3. 2010年代までの朝鮮族学校のカリキュラムにおける「朝鮮語文」の位相

「朝鮮語文」と「漢語」は朝鮮族学校のカリキュラムにある科目で、「語文」は民族学校ではない「普通学校」にある科目である。中国の「語文」は日本の「国語」に該当する。朝鮮族中学校のカリキュラムにおける「朝鮮語文」の位相を確認するには、「普通学校」の「語文」と比較する必要がある。本稿では2010年代に頒布された「朝鮮語文」、「漢語」、「語文」の「課程標準」（学習指導要領）の比較分析を通じ当時の朝鮮族中学校のカリキュラムにおける「朝鮮語文」の位相を確認する。

「朝鮮語文」の課程標準は2010年版の『義務教育朝鮮語文課程標準（2010年版）（試

行版)』、「漢語」の課程標準は2013年に発布された『民族中小学漢語課程標準(義務教育)(2013年版)』、「語文」も同じ時期の『義務教育語文課程標準(2011年版)』を中心に、朝鮮族中学校のカリキュラムにおける「朝鮮語文」・「漢語」・「語文」の位相関係を確認する。

(1)「朝鮮語文」の位相

2010年版の『義務教育朝鮮語文課程標準(2010年版)』を見ると、「朝鮮語文課程は我が民族の生が染みついている朝鮮語と文字を使う能力と態度を育て、情報化社会で朝鮮語文生活を正しくし、未来志向的な正しい民族意識と健全な公民情緒を涵養し、民族文化を続けようとする意識を持たせるための課程である」、「朝鮮語文課程の基本特徴は、道具性と人文性の統一であり、朝鮮語文課程で力を入れて育つ朝鮮語文素養は、学生たちが他の課程をよく学ぶ基礎である」と記載されている。

ここで、2010年代の朝鮮族中学校のカリキュラムにおける「朝鮮語文」は、朝鮮族の民族言語でありながら、他の課程を学ぶ基礎である授業言語として、重要な科目であることが分かる。「朝鮮語文」は、課程標準でも明記したように義務教育段階で重要な地位を占めていた。

(2)「漢語」の位相

一方、2013年版の『民族中小学漢語課程標準(義務教育)』を見ると、「我が国は統一された多民族社会主義国家である。関連法律規定によると、普通話と標準化された漢字は国の共通言語である。少数民族の学生は、自民族の言語を学習・使用すると同時に、共通語の学習と使用も強化する必要がある。民族言語と漢語のバイリンガル教育は、各民族の学生間のコミュニケーションと交流を通して各民族学生の総合的な発達と生涯発達を促進し、各民族学生の祖国意識を高め、中華民族の団結力を高めることに有利である。」と述べつつ、少数民族学生が「普通話」を学習する必要性を強調している。

さらに、漢語課程標準は、「漢語課程は中華民族の優秀な文化伝統と革命伝統を継承・宣伝、民族文化のアイデンティティを高め、民族凝集力と創造力を増強して、絶対的な優勢を維持させる能力を育成する。漢語課程の基礎的・多機能的役割は、義務教育で重要な地位を決定している。漢語科目は義務教育課程体系における基本的な役割を十分に発揮し、他の科目との連携・統合を図るべきである。漢語課程は国家公用語言語を学習する基礎的で実践的課程であり、道具性と人文性を統一した課程である。」と明記している。

2010年代の朝鮮族中学校のカリキュラムにおける「漢語」課程は、「普通話」を学習する科目で、他の科目との連携・統合を図る課程である。また、「漢語」課程は中華民族のアイデンティティを育てる役割を担っている。

(3)「語文」の位相

「語文」に関して、2011年版の『義務教育語文課程標準』を見ると「語文課程は学生の言語文字の運用能力を育成して、学生の総合的な素養を高め、他の授業をよく学ぶための基礎を築くことに力を入れている」、「中華民族の優秀な文化伝統と革命伝統を継承・宣伝、民族文化のアイデンティティを高め、民族凝集力と創造力の増強に、絶対的な優

勢を持っている。語文課程の多機能と基礎的役割は、9年間の義務教育において語文課程の重要な地位を決定している」と明記している。

「語文」は、他の授業をよく学ぶための基礎であり、授業言語として、「普通学校」の義務教育段階で重要な地位を占めている。

各課程標準では、「朝鮮語文」・「漢語」・「語文」は一律に「重要なコミュニケーションツールである」と「道具性と人文性を統一した課程である」と明言している。「朝鮮語文」と「語文」課程には、両方とも「他の課程を学ぶ基礎であり、義務教育段階で重要な地位を占める」と記されている。課程標準から、2010年代の「朝鮮語文」と「語文」は中学校のカリキュラムにおいて、授業言語として、他の課程を学ぶ基礎であり、「国語」のような存在であることがわかる。

一方、「漢語」は、朝鮮族学校のカリキュラムにおいて国家公用言語を学習する科目として、「外国語」に近い存在である。

「朝鮮語文」の課程標準では、「我が民族の生が染みついている朝鮮語」、「朝鮮族の一員として」という記述があるのに対し、「語文」の課程標準では、「中華民族の優秀な文化伝統と革命伝統を継承・宣伝」と述べられ、それぞれの課程標準で強調する「民族」の意味が異なることが見受けられる。「語文」での「中華民族」に関する記述と「漢語」の教育標準の記述は全く同じである。朝鮮族学校では、「朝鮮語文」を通して朝鮮族としてのアイデンティティを育成し、「漢語」を通して「中華民族」としてのアイデンティティを育成するとしており、言語教育によるアイデンティティ育成への方向が異なっているのがわかる。

4. 2020年代以降の朝鮮族学校のカリキュラムにおける「朝鮮語文」の位相の変化

中国教育部は2017年の秋学期から、全国の小学校と中学校で「統編教材」を使用することを推進し始めた。「統編教材」の推進とは、「語文」、「歴史」、「道徳と法治」の三つの科目の教材を国家機関で統一的に編纂し、審査を行い、全国一律に使用することを指す。その背景には、2012年の中国共産党第十八次全国代表大会で、習近平総書記が「教材建設は国家事権である」と提起したことがある。それを受け、党中央は、中国共産党第十八次全国代表大会で「教材建設」の重要性を明示し、「教育部教材局」と「国家教材委員会」を設立して教材管理を徹底することを通達した。

中国教育部は、「語文」、「歴史」、「道徳と法治」の三つの科目は、イデオロギーと文化の継承と密接に関連がある国家の核心的な教材であり、国家でどのような人間を育てるのかと直接関連するため、統一性を維持しなければならないという理由から「統編教材」を推進した（内モンゴル教育部、2020）。

2019年、国家教材委員会は、民族地域の国家公用語の教学を全面的に強化することを提起し、2020年と2022年の秋学期から、少数民族地域の義務教育機関、普通高校で「統編教材」を使用することを要求した。

2020年、朝鮮族学校は党中央の指示に従い「漢語」の科目を「語文」に変更した。「漢語」の科目を「語文」に変更する際に、授業言語を国家公用語である中国語に変更した。現在、朝鮮族学校の授業言語は、朝鮮語ではなく、中国語である。つまり、朝鮮語文は2010年の課程標準で記載されている、「学生たちが他の課程をよく学ぶ基礎」ではなくなったということである。

「朝鮮語文」の課程標準は、上記の2010年版が最後であり、その後新しい「朝鮮語文

課程標準」は頒布されていない。「漢語」も、2013年版が最後のもので、その後、新しい「課程標準」は頒布されていない。2021年、中国教育部は「教育部く中小学少数民族文字教材管理方法」の発行に関する通知の中で、『民族中小学漢語課程標準（義務教育）』（教民[2013]4号）と『全日制民族中小学漢語課程標準（試行）』（教民[2006]5号）を廃止することを発表した。そして、2022年、「語文」の最新の「課程標準」が頒布された。

以下、このような言語教育に対する政策的変化が、教育現場でどのように具体的に現れたかを見てみる。

(1) 初中学業水平考試（中学校卒業試験）から見る朝鮮族中学校の言語教育の変化

中国の初中学業水平考試（以下「中考」）は、生徒が中学校を卒業するための学力水準に達しているか否かを検査するテストである。「中考」の試験内容は、中国教育部が頒布した「義務教育課程設置実験方案」に基づいて、各地域で独自に作成する。試験科目と総点基準も地域ごとに異なる。生徒は中考の成績を基準に、普通高等学校、職業高校、中等専門学校などを応募することができる。

前述したように、朝鮮族学校は、授業科目を中央教育部の規定している科目を基本とし、「普通学校」の「語文（国語）」の科目を「朝鮮語」と「漢語」の二つに分けて実施してきた。従って、中国の「初中卒業生学業水平考試」と呼ばれる中学校卒業試験では、「朝鮮語文」と「漢語」の二つの科目の点数が「語文」の成績となった。表1は2022年の延辺州初中学業水平考試日程表である。

表1 2022年延辺州初中学業水平考試日程表

時間	6月27日	6月28日	6月29日
午前	語文 朝鮮語文	数学	外国語
午後	物理、化学	道徳と法治、歴史	漢語

（出典：延辺朝鮮族自治州人民政府ホームページより筆者作成）

ところが、2020年から、朝鮮族学校では党中央の指示に従い「漢語」科目を「語文」に変更し、授業言語を国家公用語である中国語に変更した。それに伴い、「中考」では2022年まで「漢語」の試験を実施し、2023年からは「漢語」の試験を実施しないことになった。表2は、2023年の延辺州の「中考」の日程表である。

表2 2023年延辺州初中学業水平考試日程表

時間	6月27日	6月28日	6月29日
午前	語文	数学	外国語
午後	物理、化学	道徳と法治、歴史	朝鮮語文 (民族学校)

（出典：延辺朝鮮族自治州人民政府ホームページより筆者作成）

二つの表を比べてみると、まず、2023年から「漢語」の試験は無くなっているのが分

かる。それは、前述した朝鮮族学校で、「漢語」が「語文」になったからである。

次の変化は、表1の2022年には、6月27日の午前に、朝鮮族中学校の生徒が「語文」の代わりに「朝鮮語文」を受験していたが、表2の2023年からは普通学校の生徒と同じ「語文」を受験するようになってきていることである。2022年まで、「語文」と同じような位相を占めていた「朝鮮語文」は外国語と同じレベルに転落したのが分かる。「朝鮮語文」は2023年から6月29日の午後になり、その時間帯は民族学校の生徒のみが受験し、普通学校の生徒はその時間に受験する科目がない。

2023年、吉林省普通学校の「中考」の試験科目と総点は以下のようになる。

語文(120)、数学(120)、外国語(120)、物理学と化学(120：物理学70、化学50)、
道徳と法治、歴史(120：道徳と法治60、歴史60)、スポーツと健康(50)、総点650。

民族学校は上記の試験の上に朝鮮語文の試験があり、総点が700となる。スポーツと健康は非筆記試験科目である。「中考」での「朝鮮語文」の成績に関して、延辺州の教育部で公布した資料「延辺州民族学校、中考学生募集選考改革方法(暫定)(2023年から2028年まで)」では、2023年から2028年まで、「朝鮮語文」は「中考」で試験はあるが、独立科目として計算されると発表した。

朝鮮族学校の学生は「朝鮮語文」以外の科目全部普通学校の学生と同じで、「朝鮮語文」は別途に成績がある。そうすると、朝鮮族学校の学生の「中考」成績の総点と普通学校の学生の総点は50点の差がある(延辺州教育部, 2023)。「朝鮮語文」科目の総点は100点であるが、総点を計算する時には50%で計算し、50点総点になる。その50点は参考までの点数となる。

つまり、2010年代の「中考」で朝鮮族学校の(「朝鮮語文」+「漢語」) $\div 2$ = 「語文」の構造が、「語文」 = 「語文」(普通学校学生と同様)、+「朝鮮語文」 $\div 2$ へと変化した。

(2) 延辺朝鮮族自治州教育局の通知からみる「朝鮮語文」の位相の変化

朝鮮語文教育に関して延辺州教育局は、2023年から2028年までの暫定の通知を出した。その「州教育局、全州中小学朝鮮語文教育教学指導意見に関する通知」(2023)には、「民族中学校は国家通用語言語文字を推進と共に、朝鮮語文の教学改革を実施し、過渡期の朝鮮語文指導を国家と省の民族教育に従いながら、州の実情を踏まえ行おう」と記載されている。

具体的に、小学校段階では、使用頻度の高い語彙を中心に、日常生活で使用できるレベルまで難易度を調節すること。小学校卒業する際には300から400字までの文章を書けるようにすると明記した。中学校卒業する際には600から700字までの文章を書けるように、高校卒業する際には800字の文章を書けるようにすると明記している。

朝鮮語文授業時間数に関しては、義務教育段階では、一学期に48コマ(毎週3コマ、全16週)、高校段階では16コマ(毎週1コマ、全16週)と決めている。

さらに、教科書の中での必修文章を決めている。例えば、中学校の各学期の朝鮮語文教科書には18個の読みもの文章があるが、その内8文章を必須文章と選んでいる。

ただ、朝鮮語教育の過渡期である現在、教科書と教師用参考書が、実際どのくらい使用されているのかは確認できない。

授業時間数を見ると、朝鮮族中学校の朝鮮語の授業時間は、週3コマに減らされてお

り、さらに、「中考」では、朝鮮語文の成績を別途に扱い、重要でない科目になってしまった。現在、朝鮮族学校における「朝鮮語文」は選択科目のような存在である。

5. 少数民族学校における民族言語教育の変化の背景

中国政府は中華人民共和国成立以来、民族言語教育の発展とともに、国家公用語の普及政策を推進してきた。改革開放の深化と人口移動の自由により、普通話¹はさらに重要なコミュニケーションのツールとなった。1982年の『中華人民共和国憲法』第19条では、国家公用語である普通話を普及することを明記したほどである。さらに、1994年からは、普通話水平テストを行うようになった。しかし、普通話の普及努力にもかかわらず、2000年の全国言語文字使用状況に関する資料によると、全国普通話の普及率は53.06%に留まっている(楊, 2022)。

2017年に開催された中国共産党第十九次全国代表大会で、習近平は「中国共産党の民族政策を全面的に貫徹し、民族団結進歩教育を深化させ、中華民族共同体意識を強固にする」ことを提起した。その後、「中華民族共同体意識を強固にする」という文言は公文書に頻繁に使用され、2022年の中国共産党第二十次全国代表大会のキーワードとなった。中国共産党第二十次全国代表大会では、中華民族共同体意識と各民族意識の関係性を正確に捉え、中華民族共同体の利益を優先すると明言している。言語文字に関しては、国家公用語をさらに普及し、民族言語は科学的に保護することを要求した。

政府が普通話の普及に力を注いだ結果、2020年の全国普通話普及率は80.72%までに伸びた(『中国青年報』, 2020年9月15日)。2022年には、全国の漢字の識字人口が95%を超え、非識字率は2.67%のみとなった(『人民日報』, 2022年7月5日)。

しかし、2020年の“三区三州”¹の普通話普及率は全国の普及率80.72%より低い61.56%である(『中国青年報』, 2020年9月15日)。「三区三州」は主に少数民族の居住地で貧困地域でもあり、中国政府は教育の力によって貧困から抜け出すことの重要性を強調している。「三区三州」の普通話普及率が61.56%であることから、中国国内において国家公用言語文字である中国語の普及が、まだ不均衡であることが分かる。

中国国務院が2020年に発表した「国務院弁公庁：新時代の総合語学力強化に関する意見」を見ると、「言語文字は人類の重要なコミュニケーションツールと情報媒体であり、文化の基本要素と象徴である。言語文字の発展は、国民素質の向上と歴史文化の継承、経済社会の発展と密接な関連性があり、国家統一と民族団結、国家総合実力の支えになるため、党と国家工作において重要な地位を占める。」と述べつつ、「中国が成立して以来、言語文字の発展は歴史的な成果を果てしているものの、国家公用言語文字である中国語の普及は、まだ不均衡であり、不十分である」と指摘している。

統一した国家の中で、言語の統一は労働生産性の向上と民族団結・国民統合に重要な役割を担っている。中国政府は、グローバル社会における国家発展と実力向上のために、普通話の普及を強調していると考えられる。

普通話の普及に対し、「国務院弁公庁：新時代の総合語学力強化に関する意見」では、

¹ 「三区三州」: 「三区」とは、チベット自治区; 青海、四川、甘肅、雲南四省のチベット地域; 新疆ウイグル自治区南部の四地域: 和田地区、阿克蘇地区、カシュガル(喀什)地区、クズルス・キルギス(克孜勒蘇柯尔克孜)自治州を指す。「三州」は、四川省涼山イ族自治州、雲南省怒江リ族自治州、甘肅省臨夏回族自治州を指す。

習近平新時代中国の特色ある社会主義思想のもとで、国家公用言語文字の普及に重点を置いて、言語文字の規範化、標準化し、科学的に各民族言語文字を保護することを明記している。

具体的に、「2025年まで普通話普及率を85%に到達させ、2035年まで全国の民族地域、農村地域にまで全面的に普及させる」という目標を定めている。各民族言語文字に関しては、具体的な目標は示さず「科学的に保護する」だけを明記している。ここで言う「科学的に保護する」とは、前述した、延辺州教育局で示した「国家と省の民族教育に従いながら、州の実情を踏まえて行う民族（朝鮮）語文の教学改革」をさしているように見える。

同年発表した「中華人民共和国国民経済と社会発展第十四個五年計画と2035年長期目標綱要」の第十三篇「国民素質を上昇し人の全面的発展を促進する」では、公教育の均等化を促進すること、義務教育の均衡発展と高校入学率を90%以上に上げること、(小学校入学前の学前教育)入園率を90%以上にすることを明記している。さらに、民族地区の教育質と水準を上昇すると共に、公用言語である中国語の普及を拡大する目標を明らかにしている。

中国政府は、義務教育と高校入学率を90%以上上げることなど具体的な目標を設定し、少数民族地域の教育水準の向上に力を入れている様子である。さらに、全国の教育格差をなくす政策として、普通話の普及を大々的に掲げていることが感じ取れる。

おわりに

朝鮮族中学校のカリキュラムにおける「朝鮮語文」の位相が2010年代から2020年代現在に至るまでどのように変わってきたのかについて、以下のように整理できる。

2010年代、朝鮮族学校において「朝鮮語文」は「語文」と同じように授業言語として国語の役割を担い、他の科目を学ぶ基礎であった。さらに、「朝鮮語文」は朝鮮族の一員としての民族意識を育てる役割を担い、中華民族としてのアイデンティティを持たせる役割を担う「漢語」と役割を分担していた。

2023年現在、「朝鮮語文」は、授業言語ではなくなり、「漢語」科目が「語文」になり、中国語が授業言語になった。授業時間数と「中考」の成績配分から見ると、「朝鮮語文」は実質的に選択科目のようになった。生徒が「朝鮮語文」の科目を通して、朝鮮族の言語・文化を継承できるのかはいささか疑問である。

本稿ではこれらの変化の背景に関して、政府の政策的方向を中心に整理してみた。中華民族共同体意識を高め、国家の総合実力向上が求められる時代であるという認識から政府は、国家公用語の普及に尽力しつつ、時代に見合う少数民族の言語教育を科学的に保護するという変化を選択したということになっていると推察することができる。そのため、現在朝鮮族学校の言語教育は過渡期にさしかかっていると言っても過言ではない。これから、学校教育のカリキュラムとして存続していけるか否かを含め、朝鮮族の固有の言語がどのように継承されていくか、朝鮮族社会は大きな局面を迎えているといえる。

参考文献

資料：

『義務教育朝鮮語文課程標準（2010年版）』

『義務教育語文課程標準（2011年版）』

『民族中小学漢語漢語課程標準（義務教育）（2013年版）』

『義務教育語文課程標準（2022年版）』

書籍：

岡本雅享（2008）『中国の少数民族教育と言語政策』社会評論社

趙貴花（2016）『移動する人びとの教育と言語—中国朝鮮族に関するエスノグラフィー—』三元社

論文：

蔡光華・日下部龍太・李修京（2023）「中国の少数民族教育にみる多文化教育-吉林省延辺朝鮮族自治州を中心に-」東京学芸大学紀要 人文社会科学系(74)40-52

中国語論文：

楊常宝（2022）「中华民族共同体建设语境下的推广普及国家通用语历程考察」中华民族共同体研究 2022年第6期, pp. 123-172

中国語公文書：

国务院办公厅《国务院办公厅关于全面加强新时代语言文字工作的意见》国办发〔2020〕30号

中华人民共和国教育部「教育部关于印发《中小学少数民族文字教材管理办法》的通知」教材〔2021〕4号

教育部办公厅「教育部办公厅关于印发《基础教育课程教学改革深化行动方案》的通知」教材厅函〔2023〕3号

延辺州教育局「延辺州民族学校 2023年から2028年まで、中考学生募集選考改革方法（暫定）」延州教基字（2023）8号

延辺州教育局「州教育局关于印发全州中小学朝鲜语教育教学指导意见的通知」延州教基字（2023）12号

参考サイト：

國務院新聞弁公室 2009年白皮書「中国の民族政策と各民族共同繁栄発展」

http://www.gov.cn/zhengce/2009-09/27/content_2615773.htm

（2023年11月26日閲覧）

中華人民共和国国家民族事務委員会(1980)「教育部、民族教育工作強化に関する意見

<https://www.neac.gov.cn/seac/xxgk/200406/1079486.shtml>

（2023年11月22日閲覧）

延辺朝鮮族自治州人民政府

<http://www.yanbian.gov.cn/index.html>

（2023年11月22日閲覧）

《延辺朝鮮族自治州自治条例》

http://www.law-lib.com/law/law_view.asp?id=18505

（2023年11月22日閲覧）

『中国青年報』「全国普通話普及率 80.72%に達する」

http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/s5147/202009/t20200915_488008.html

(2023年11月13日閲覧)

中華人民共和國教育部「貧困が深刻な地域に焦点を当て、「3地区3州」の教育を通じて貧困緩和を推進する(聚焦深度贫困地区, 推进“三区三州”教育脱贫)」

http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/xw_zt/moe_357/jyzt_2019n/2019_zt27/zsgx/hzsf dx/201910/t20191015_403569.html (2023年11月13日閲覧)

『人民日報』「全国普通話普及率 80.72%に達する」

http://www.moe.gov.cn/fbh/live/2022/54618/mtbd/202207/t20220705_643272.html?eqid=821f0324000439110000000664567dbc (2023年11月13日閲覧)

「中華人民共和國國民經濟と社会發展第十四個五年計畫と 2035年長期目標綱要」

http://www.gov.cn/xinwen/2021-03/13/content_5592681.htm

(2023年11月13日閲覧)

内モンゴル教育部(2020) 内蒙古自治区教育厅使用国家统编教材“有问必答”(第一期)

https://web.archive.org/web/20201001101720/http://www.nmg.gov.cn/art/2020/9/7/art_429_338595.html (2023年11月13日閲覧)

付録:

1) 『義務教育朝鮮語文課程標準 (2010年版)』

原文:

어문은 가장 중요한 교재 도구이고 인류 문화의 중요한 구성 부분이다. 조선어문과는 우리 민족의 삶이 배어 있는 조선말과 글을 사용하는 능력과 태도를 길러 정보화 사회에서 조선 어문 생활을 바르게 해 나가고 미래 지향적인 올바른 민족의식과 건전한 공민 정서를 함양하며 민족문화를 이어 가려는 뜻을 갖게 하는 교과목이다.

조선 어문 과정의 기본 특징은 도구성과 인문성의 통일이다. 조선어문 과정에서 힘을 들여 길러 주는 조선 어문 소양은 학생들이 기타 과정을 잘 배우는 기초이고 또 학생들의 전면 발전과 평생발전의 기초이며 조선 민족의 일원으로 살아가는 데 반드시 갖추어야 할 기본적인 자질이다. 이러한 역할로 하여 조선 어문 과정은 의무 교육 단계에서 중요한 지위를 차지한다.

訳文:

朝鮮語文は最も重要なコミュニケーションツールであり、人類文化の重要な構成部分である。朝鮮語文課程は、我が民族の生が染みついている朝鮮語と文字を使う能力と態度を育て、情報化社会で朝鮮語文生活を正しくし、未来志向的な正しい民族意識と健全な公民情緒を涵養し、民族文化を続けようとする意を持たせる為の課程である。

朝鮮語文課程の基本特徴は、道具性と人文性の統一である。朝鮮語文課程で力を入れて育つ朝鮮語文素養は、学生たちが他の課程をよく学ぶ基礎であり、学生たちの全面発展と生涯発展の基礎であり、朝鮮族の一員として生きていく上で必ず備えなければならない基本的な資質である。このような役割であるため、朝鮮語文課程は義務教育段階で重要な地位を占める。

2) 『義務教育語文課程標準 (2011 年版)』

原文：

语言文字是人类最重要的交际工具和信息载体，是人类文化的重要组成部分。语言文字的运用，包括生活，工作和学习中的听说读写活动以及文学活动，存在于人类社会的各个领域。(省略)

语文课程致力于培养学生的语言文字运用能力，提升学生的综合素养，为学好其他课程打下基础；为学生形成正确的世界观，人生观，价值观，形成良好个性和健全人格打下基础；为学生的全面发展和终身发展打下基础。语文课程对继承和弘扬中华民族优秀传统文化和革命传统，增强民族文化认同感，增强民族凝聚力和创造力，具有不可替代的优势。语文课程的多重功能和奠基作用，决定了它在九年义务教育中的重要地位。语文课程是一门学习语言文字运用的综合性，实践性课程。义务教育阶段的语文课程，应使学生初步学会运用祖国语言文字进行交流沟通，吸收古今中外优秀文化，提高思想文化修养，促进自身精神成长。工具性与人文性的统一，是语文课程的基本特点。

訳文：

言語文字は人類の最も重要なコミュニケーションツールと情報伝達媒体であり、人類文化の重要な構成部分である。(省略)

語文課程は学生の言語文字の運用能力を育成して、学生の総合的な素養を高め、他の授業をよく学ぶための基礎を築くことに力を入れている。学生に正確な世界観、人生観、価値観を形成して、良好な個性と健全な人格を形成するための基礎を築くことと学生の全面的な発展と生涯発展に基礎を築く。語文課程は中華民族の優秀な文化伝統と革命伝統を継承・宣伝、民族文化のアイデンティティを高め、民族凝集力と創造力の増強に、絶対的な優勢を持っている。語文課程の多機能と基礎的役割は、9年間の義務教育において語文課程の重要な地位を決定している。語文課程は言語文字運用を学習する総合性と実践性のある課程である。学生は義務教育段階の語文課程を通し、祖国言語文字でコミュニケーションと交流する能力を身につけ、古近中外の優秀な文化を吸収し、思想文化素養を高め、自身の精神面の促進する必要がある。道具性と人文性を統一は語文の基本特徴である。

3) 『民族中小学漢語漢語課程標準 (義務教育) (2013 年版)』

原文：

我国是统一的多民族的社会主义国家。根据我国有关法律规定，普通话和规范汉字是国家通用语言文字。少数民族学生在学习和使用民族语言文字的同时，应该加强对国家通用语言文字的学习和使用。民汉双语教学有利于促进各民族学生之间的沟通和交流，有利于促进各民族学生的全面发展和终身发展，有利于增强各民族学生的祖国意识，有利于增强中华民族的凝聚力。(省略)

汉语课程致力于培养学生的汉语应用能力，提升学生的汉语素养，为学好其他课程打下基础；为学生形成正确的世界观、人生观、价值观，形成良好个性和健全人格打下基础；为学生的全面发展和终身发展打下基础。汉语课程对继承和弘扬中华民族优秀传统文化和优良传统，增强中华民族文化认同感，增强中华民族凝聚力和创造力，具有不可替代的作用。汉语课程的多重功能和奠基作用，决定了它在义务教育中的重要地位。汉语课程应充分发挥在义务教育课程体系中的基础作用，努力实现与其他课程的衔接和贯

通。

訳文：

我が国は統一された多民族社会主義国家である。関連法律規定によると、普通話と標準化された漢字は国の共通言語である。少数民族の学生は、自民族の言語を学習・使用すると同時に、共通語の学習と使用も強化する必要がある。民族言語と漢語のバイリンガル教育は、各民族の学生間のコミュニケーションと交流を促進と各民族学生の総合的な発達と生涯発達を促進し、各民族学生の祖国意識を高め、中華民族の団結力を高めることに有利である。(省略)

漢語課程は学生の言語文字の運用能力を育成して、学生の総合的な素養を高め、他の授業をよく学ぶための基礎を築くことに力を入れている。学生に正確な世界観、人生観、価値観を形成して、良好な個性と健全な人格を形成するための基礎を築くことと学生の全面的な発展と生涯発展に基礎を築く。漢語課程は中華民族の優秀な文化伝統と革命伝統を継承・宣伝、民族文化のアイデンティティを高め、民族凝集力と創造力を増強して、絶対的な優勢を持っている。漢語課程の多機能と基礎的役割は、義務教育で重要な地位を決定している。漢語科目は義務教育課程体系における基本的な役割を十分に発揮し、他の科目との連携・統合を図るべきである。漢語課程は国家公用語言語を学習する基礎的で実践的課程であり、道具性と人文性を統一した課程である。